

授業改善ツール 「3・9チェック」

見て欲しいところ
をアピール

• 3つのポイント

9つのチェック項目

• サンキュー

見てくれてありがとう

見せてくれてありがとう

学校全体で取り組む

臼杵市 授業改善 3・9チェック

○授業改善のための「3つのポイント」「9つのチェック項目」です。
授業の振り返りや互見授業等の視点として活用して下さい。
＜使い方＞ ①授業者は、本時の教科・単元名・題目・展開・特に力を入れる「力点」に○をして授業をします。
②参観者(学力向上支援教員等)は、備考欄に気が付いたことを記入します。
③授業者と参観者は授業についての意見交換を行います。

月 日 ()	年 組	授業者
教科	教科・領域名を記してください。	
単元名	単元名そのままでもよいですが、サブ(～～)につけたい力を明確にすると評価しやすいです。	
題目	課題と同じでもよいです。深める問い(揺さぶる問い、切り返しの問い)であれば、より焦点化していくとおもいます	
主眼	【3段で書くときスッキリします】 ① ～を(追求対象)⇒子どもが1単位時間で追っかけるものやことを書きます。 ②～から捉え、～に目を向けて(手立て)⇒ねらいに向かっていくための手立てや状況づくりを書きます。 ③～理解することができる。～できる(到達像)⇒授業の終末時に期待する子どもの姿、発言、意識を書きます。	
展開	1課題 「～か」が望ましいとおもいます。 2 「個」で考える時間、「全体」で考える時間を整理しておくことより望ましいです。 3 4 まとめに向かっていく状況を書きます。 まとめ 終末時に期待する子どもの姿で書きます。	「課題」と「まとめ」が つながっているか確かめましょう
ポイント	チェック項目	力点を意識する際のポイント
① 学び合う授業	1 ① 学び合う場の設定 ○教師は、子どもたちが 学び合う場 を位置づけているか。	【ポイント】言うまでもなく、授業を組み立てるのは、指導者です。ただその中に、1つでも子どもが「考えを出し合う」、「答えを1つにきめる」、「ヒントをもらう」、「アドバイスをする」などの状況をつくることで、子どもの学習に向かう意識が変わってきます。
	2 ② 話し合い活動の工夫 ○教師は、話し合い活動が深まるような工夫をしているか。	【ポイント】単に教師が「はい、話し合いなさい」というだけでは、話し合えません。①「話し合いの型」②「話し合いの視点」③「話し合いが終わった後のゴール」を子どもに指示しなさいと子ども自身が困ります。われわれ大人も同じですね・・・。
	3 ③ 教師説明型からの脱却 ○教師は、「教えること」と「考えさせること」を区別し、必要以上に説明をしていないか。	【ポイント】よく教師の発言の量を半分にする、と授業が変わると言われますが、3分の1減らすだけでもまった(変わった授業になると)思います。
② 学習過程の明確化	4 ④ 課題の位置づけ ○教師は、「課題」を明確に位置づけているか。	【ポイント】教師が課題を①「生み出すのか」②「位置づけるのか」の立ち位置をはっきりさせましょう。生み出すのであれば、課題の前の子どもの考えのズレが生まれる状況作り(具体の提示や比較する場など)や考えの背景を探る(「何でそうおもったの?」「だってね～」)は不可欠です。
	5 ⑤ 課題とまよめの呼応 ○教師は、課題と呼応したまよめを位置づけ、 時間内 に授業を終えているか。	【ポイント】よく「課題とまよめがつながっていない」「それは課題なのか」という指摘を受けることがあります。その改善策として、課題から考えるのではなく、まよめ(最終像)をおいてそこからさかのぼって学習活動を組み立てていくとよいと思います。
	6 ⑥ 板書の構造化 ○教師は、「 板書プレート 」を使って学びの道筋が見える 板書の構造化 をしているか。	【ポイント】*ポイントは、3つです。 ①「板書プレート」の活用(日常的に) ②文字をできるだけ少なく⇒子どもの考えの「キーワード化」 ③大きく、読みやすく、丁寧な文字であれば子どもに伝わりやす。
③ 書く活動・話す活動の	7 ⑦ 話す場・書く場の設定 ○教師は、子どもが 話す場・書く場 を分かりやすく位置づけているか。	【ポイント】「適度な子どもの追い込み」が必要です。例として・3文で書きなさい。・六十文字以内で書きなさい。 ・タイマーの活用 ・「すごい」、「えらい」、「楽しい」をNGワードにして別の言葉で表現させる。
	8 ⑧ 書く活動のレベルアップ ○教師は、子どもが言葉や図・表等を使い、 考えや根拠を詳しく書けるためのノート指導 などの手立てを講じているか。	【ポイント】特に算数(数学)・理科においては、自分の考えを円などを用いて書き表すことは、読解力(思考力・表現力・判断力)の向上に有効に働きます。また、「理由・根拠・だってね」を積極的に書かせていくことも大切です。
	9 ⑨ 話す活動のレベルアップ ○教師は、子どもたちが 言葉のキャッチボール(話す・聞く・返す) をできるための手立てを講じているか。	【ポイント】⑨のポイントは、「良質な人間関係」です。つながりのある集団は、おのずと個と集団の力が高まっていくと考えます。学力向上の決め手はこれに尽きるのではないのでしょうか。